

# 水稲総合防除（IPM）における管理ポイントの実践方法

実際に総合防除（IPM）を行う際には、何を目標に、どのように取り組めば良いのでしょうか？

ステップ1からはじめてみましょう。

まずは、防除効果の安定を目指しましょう。

ステップ  
1

〔目標〕

- ・従来の農薬使用による防除体系での、病虫害雑草防除効果の**安定**

〔実践内容〕

- ・前記、管理ポイントについて、これまでの病虫害雑草の発生状況に合わせて、管理項目を選択して実施する。

さらに、農薬の使用量を減らす場合は、複数の管理ポイントを組み合わせて実践しましょう。



ステップ  
2

〔目標〕

- ・農薬使用を慣行使用成分より、一定割合以上削減する。

① 2割以上削減 ⇒ エコファーマー認証

② 5割以上削減 ⇒ 特別栽培農産物認証

注）農薬使用成分削減以外の要件があります。

〔実践内容〕

- ・前記、管理ポイントを基本事項として実践。
- ・特に、問題となる病虫害については、複数の管理項目を組み合わせて実践する。

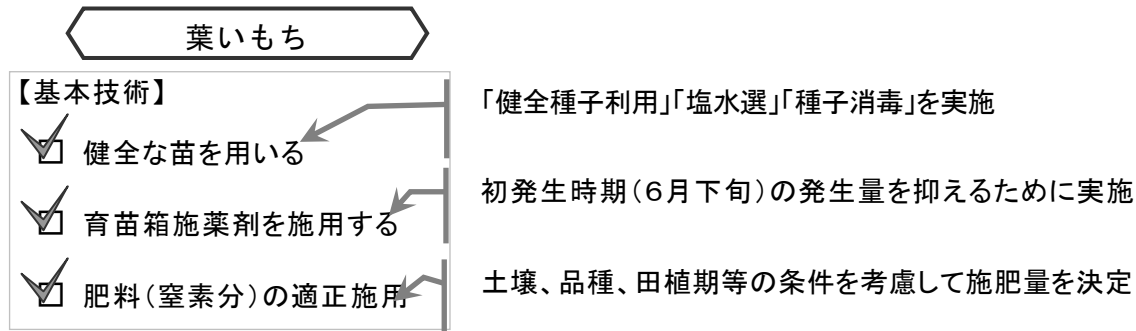
まずは、自分が何を目標に総合防除（IPM）に取り組もうとしているのかを考えましょう！

【参考資料 1、2】「水稲病害虫別の管理ポイント」（広島県中部地帯）の使い方

それぞれの病害虫について、管理ポイントを見ていきましょう。  
実践できそうな項目や、どのようにしたら実践できるのかを考えてみましょう。

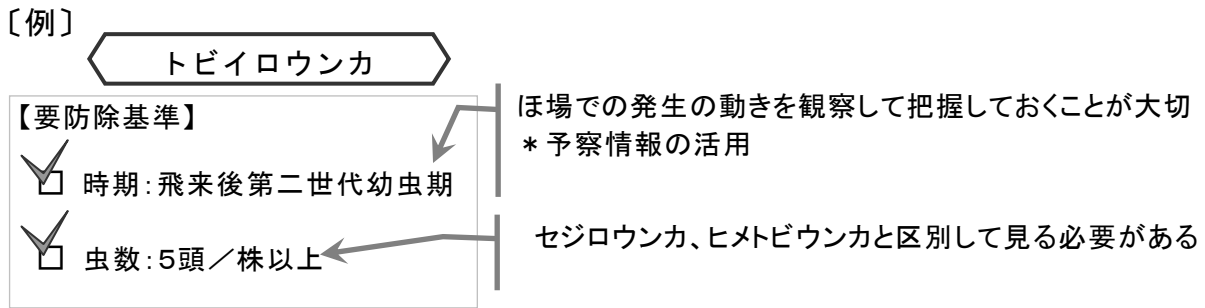
【参考資料 1】「水稲病害の発生と総合防除（IPM）技術」

\* 病害防除対策で大切なことは…『**予防的な対策を適切に行うこと。**』



【参考資料 2】「水稲害虫の発生と総合防除（IPM）技術」

\* 害虫防除対策で大切なことは…『**要防除の判断を的確に行うこと。**』



管理ほ場ごとに病害虫の発生状況が違います。

そのため、ほ場ごとに病害虫の発生状況を把握し、  
それぞれに応じた対策を整理しておくことが大切です。

あわせて、「総合防除（IPM）を行うために利用できる防除技術」も  
参考にしてください。

それぞれの病害虫に対して、整理したものを以下の例を参考に、表にまとめてみましょう。

### 1. 病害防除対策の整理表〔例〕

病害名	重要度	既に実施している管理項目と評価	農薬による防除の実施内容と効果	農薬使用を控えた場合の影響と対策
〔例〕 いもち病	高	3.種子更新・塩水選 4.健苗育成 7.置き苗除去 〔評価〕伝染源を断つための管理は実施 〔課題〕ほ場条件により過繁茂の生育	①種子消毒 ②育苗箱施薬 ③穂ばらみ期防除 ④出穂期防除 ⇒通常年の適正生育ほ場では、いもち病被害回避可能	穂ばらみ期防除を控えた場合 〔影響〕葉いもちの発生状況により穂いもち多発の恐れ
〇〇〇病				

### 2. 害虫防除対策の整理表〔例〕

#### 1) 飛来害虫

病害名	重要度	ほ場での発生状況の把握方法と対応	農薬による計画防除の内容と効果	多発生時の農薬防除の判断と対応
〔例〕 トビイロウンカ	高	8月上旬、防除実施前ほ場で払い落とし調査で発生状況把握 * 予察情報の活用	①育苗箱施薬 ②出穂期防除 * 多発年では被害が発生する恐れ	* 飛来後第二世代幼虫期、要防除水準を超えた場合、 <b>追加防除</b> を実施
〇〇〇〇				

#### 2) 越冬害虫

病害名	重要度	地域の発生傾向に対応した管理項目	農薬による計画防除の内容と効果	多発生時の農薬防除の判断と対応
〔例〕 斑点米カメムシ	高	山寄せや出穂の早いほ場で被害が多い 1.出穂2週間前までに畦畔の草刈実施	①出穂期防除 * 多発条件では斑点米被害が発生する恐れがある	* 乳熟期、すくい取り調査で、要防除水準を超えた場合、 <b>追加防除</b> を実施

まずは、自分のほ場の状況を把握するなど、自分にできるところから始めてみてください。